

Crown English Communication II, p. 137.

Lesson 9**The Long Voyage Home**

In 2003, Japanese scientists sent Hayabusa on a mission to bring back soil samples from Itokawa, a tiny ⁽¹⁾asteroid 300 million kilometers away. This was an almost impossible mission.

-1

The Hayabusa Project was very ⁽²⁾ambitious. JAXA set very difficult goals for the mission: developing ion engines, developing an autonomous navigation system, collecting soil samples from Itokawa, and bringing them back. Since asteroids like Itokawa ⁽³⁾date from the beginning of our solar system, such samples will help solve the mysteries of our system's origin. This would be unprecedented in the history of space exploration.

Developing ion engines for space exploration was one of the most important goals. Most rocket engines use gases and liquids. An ion engine uses ⁽⁴⁾electric fields. Its power is so small that it can only lift a one-yen coin. Yet in space, there being no gravity and no air resistance, even a small ⁽⁵⁾amount of energy can be powerful.

Lesson 9—Lead

(1) asteroid 図 1, p. 120.

as·ter·oid /æstərɔɪd/ 図 1 〔天〕小惑星(主に火星・木星の軌道間に散在する)。2 〔動〕ヒトデ (starfish)。— 図 小惑星の; 星型の。
◆ **~ belt** 〔天〕小惑星帯。

- 宇宙の話なので、『天』(天文学)という専門用語レーベルが付された語義 1 を参照させる。
- 『 』に囲って示されているのは専門用語であり、ここでは天文学用語を表していることを確認させる。

Lesson 9—Section 1

(2) ambitions 図 2, p. 67.

am·bi·tious /æmbɪʃəs/ (強勢は第2音節) [-→ambition]

— 図 (more ~; most ~) 1 〔人が〕「…しようと/…に対して」熱望して、野心を持って「to do/for, of»; 野心のある、野心家の ▶ The mother was very ambitious for her only son. 母親は一人息子に大いなる希望を抱いていた/an ambitious reporter 野心的な記者。
2 〔計画・考えなどが〕野心的な、大規模な ▶ an ambitious project [goal] 大がかりな計画[大いなる目標]。
~·ly 野心的に。~·ness 図

- 見出し語の発音記号に続き、(強勢は第2音節)という発音注記があるのでチェックさせる。
- 山形かっこ 〈 〉 に囲って、形容詞が修飾する名詞の特徴(選択制限)が示されているので確かめさせる。教科書本文では the Hayabusa Project を修飾していることから、「計画・考えなど」を修飾する語義 2 に導く。
- 辞書の用例が教科書本文と同じ project を使っているので、よく使われるコロケーションとして確認させる。

(3) date ㊦ 成句 **date from A**, p. 478.

— ㊦ 1 〈服・技術などが〉時代遅れになる。
 2 〈米・くだけて〉付き合う (→go¹ out (2)) ▶ We've been *dating* for about a month. 私たちは付き合っはばひと月になる。 3 〈手紙などが〉《…の》日付となっている《from》。 4 〈作品などが〉ある時代〔時期〕に属する。
date back to A 〈物・事が〉A〈ある時代〉に遡る ▶ The tradition *dates back to* the fourteenth century. その伝統は14世紀に遡る。
date from A (1) ↑ ㊦ 3. (2) A〈ある時代〉から始まる。

- 教科書本文では「日付」という名詞の *date* ではなく動詞であること、*from* が後続していることを確認させてから、成句の *date from A* に導く。
- 成句の(1)は↑で㊦3へ参照を指示しているので、㊦3と(2)の成句義を比較させる。(2)にはAにあたる名詞の特徴が〈 〉に囲って示されているのでチェックさせる。「A〈ある時代〉」という説明が教科書本文の *the beginning of our solar system* (私たちの太陽系の始まり)と合っているので、教科書のこの部分は「私たちの太陽系に始まる〔始めにさかのぼる〕」となることを確認させる。

(4) electric ◆ ~ **field**, p. 611.

◆ ~ **blánet** 電気毛布。 ~ **blúe** 鋼青色, さえた青色。
 ~ **cháir** 《主に米》〔通例 the ~〕(処刑用の)電気いす; 電気いすによる処刑。 ~ **cóoker** 電気釜。 ~ **éel** 【魚】電気ウナギ。 ~ **eye** 《くだけて》光電池 (photoelectric cell)。
 ~ **fénce** (人・動物を通過させないための)電気フェンス。 ~ **field** 【物理】電界。 ~ **fire** 《英》電気ストーブ。 ~ **guitár** エレキギター。 ~ **háre** 電動ウサギ (ドッグレースでおとりとして用いる)。 ~ **light** 電灯(の光)。 ~ **órgan** 電気オルガン; (電気ウナギなどの)発電器官。 ~ **ráy** 【魚】シビレイイ。
 ~ **rázor** [sháver] 電気かみそり。 ~ **shóck** 電気ショック, 感電。 ~ **shóck thérápy** 【医】電気ショック療法。 ~ **stórm** 《英》雷雨。 ~ **tóothbrush** 電動歯ブラシ。 ~ **véhicle** = EV.

- 複合語は、見出し語の最後にスワングダッシュ(~)によって省略された形で示されていることを確かめさせる。
- 複合語にも、見出し語同様〔 〕に囲って専門用語レーベルが付いていることをチェックさせる。〔物〕は物理学用語であることを確認させる。

(5) amount ㊦ 1, p. 70.

amount ^{*} /əməʊnt/
 [a (...に) mount (上る)]
 — ㊦ ㊦ ~s /ts/ 1 ㊦ [a... amount [... amounts] (of A)] ... 数量〔額〕(のA) (㊦ ... は ㊦; ↓ 語法) ▶ *a large amount of money* ≙ *large amounts of money* 多額の金 / The medicine is harmless if taken in small amounts. この薬は少しずつ飲めば害がない / *a certain amount of time* [confidence] ある程度の時間[自信] (≙ *some time* [confidence]) / *Huge amounts of data* are available on the Internet 膨大なデータがインターネット上で入手できる。

- (2)の *ambitious* の数ページ先なので、続けて調べさせるとすぐに見つけられる。
- 語義 1 の文型表示 [a ... amount [... amounts] (of A)] が教科書本文の *a small amount of energy* と合致していることを確認させ、「少量のエネルギー」という意味になることを確かめさせる。

語法 コーパス (1) amount を修飾する ㊦ は large, small, certain, considerable, enormous, fair, huge, tremendous など、× big, × little は通例用いない。
 (2) of に続く A は物質・時間・金額・感情・行為などの ㊦ 名詞で、㊦ 名詞の複数形には通例 a number of を用いる。ただし (くだけて) では A を1つのまとまりとして見て amount を用いることも多い ▶ *an enormous amount* [number] of resources 莫大(膨)な資源。

- 語義 1 に続く 語法 コラムの(1)には amount を修飾する形容詞が挙げられているが、この中に教科書本文の *small* も含まれており、この形でよく使われる形容詞であることを確認させる。また、このコラムには コーパス というロゴがついていることをチェックさせる。『ウイズダム英和辞典』はコーパスを用いて編纂されており、実際に使われている英語の実態を解説している部分にこのロゴが用いられていることに注意させる。
- 語法 コラム(2)には of に続く名詞の特徴が説明されているので参照させる。教科書本文の *energy* も不可算名詞であることを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 138.

—2

Developing an autonomous navigation system was another goal. It ⁽¹⁾takes a radio signal 16 minutes to travel 300 million kilometers between the Earth and Itokawa. In an emergency, Hayabusa could not wait for commands. It had to judge the situation and decide what to do on its own.

The other two goals were even more difficult. Itokawa is a small peanut-⁽²⁾shaped asteroid only 535 meters long. Flying at the speed of 34 kilometers per second, Hayabusa would be trying to hit a piece of “dust” in space. This would be like hitting a one-millimeter target in Brazil from Japan. One of the scientists observed, “If Hayabusa achieves these goals, it will have done what no other spacecraft has ever done.”

Getting to Itokawa was difficult, but ⁽³⁾touching down and collecting

Crown English Communication II, p. 139.

the soil samples was ⁽¹⁾next to impossible. In its first attempt to land, Hayabusa was damaged. A week later, it tried again. This time it was able to land and collect the samples.

Hayabusa headed home, but almost immediately fuel began to leak and its batteries began to ⁽²⁾fail. The team managed to solve these problems, but days later things got much worse. All ⁽³⁾communication with Hayabusa was cut off.

(1) next ㊦成句 **next to A**, pp. 1289–90.

next to A (1) (位置などが) A (人・物など)の隣に, Aに接して (beside) (↑ **語法のポイント**) ▶sit *next to* each other 隣り合わせに座る/wear the shirt *next to* the skin シャツをじかに着る. (2)ほとんどAだ (almost) (㊦ Aは否定的内容の㊦㊦など) ▶know *next to* nothing about A Aについてほとんど知らない/It's *next to* impossible. それはほとんど不可能だ. (3) (順序などの点で) Aの次に, Aについて (after) ▶*Next to* lobster, I like salmon. ロブスターの次にサーモンが好きだ. (4) A (人・物など)に比べると ▶*Next to* him, I'm just a beginner. 彼に比べると僕はただの初心者にすぎない.

- 教科書本文では **next to** に impossible (不可能な) という形容詞が後続していることを確かめさせる。
- 成句義のうち, (1)は位置を, (3)は順序などを, (4)は比較を表す用法であり, 教科書のこの部分とは合わないことをチェックさせる。
- 教科書本文で使われている impossible が成句義(2)の(㊦)Aは否定的内容の㊦㊦などという注記と合っていることを確かめさせる。impossible が使われている辞書の第2用例の訳を参照させ, この部分は「土壌サンプルを採取することはほとんど不可能だった[ほぼ不可能に近かった]」という意味になることを確認させる。

(2) fail ㊦㊦ 4, p. 681.

機能が停止する 4 (機械・器官などが)動かなくなる, 働かなくなる ▶My dad's heart *failed*. 父は心不全を起こした。

- 教科書本文では主語が its batteries (そのバッテリー)であること, 目的語が後続していないことから自動詞であることを確かめさせる。
- 山形かっこ〈 〉で示されている主語となる名詞の特徴(選択制限)に注目させ, 教科書本文の主語の名詞と合う「〈機械・器官などが〉動かなくなる, 働かなくなる」を意味する語義 4 へ導く。

(3) communication ㊦ 1, p. 385.

com·mu·ni·ca·tion /kəmjuːnikéɪʃ(ə)n/ [→communicate]

㊦㊦ (㊦ ~s /-z/) 1 ㊦ «…との/…の間の» (情報・意図・感情などの)伝達, 連絡, 通信, やり取り; 意思の疎通, 心の通い合い[交わり], コミュニケーション «with/between» ▶be in *communication with* A (かたく) A (人)と(定期的に)連絡を取り合っている/improve [build, establish] the *communication between* the two countries 2 国間の連絡を密にする[確立する]/*communication skills* 自分の意図を伝える力, コミュニケーション能力/English is now the means of global *communication*. 英語は今や地球規模のコミュニケーション手段だ/nonverbal *communication* (身ぶりや表情による)非言語コミュニケーション/There seems to be a lack [failure] of *communication between* them. 彼らは心が通じ合っていないようだ。

- カタカナ語として定着した訳語だけではなく, 文脈に合った訳語を辞書から選ばせたい。教科書本文が all communication となっていることから不可算用法であること, 共に使われる前置詞(連語)を示す二重山形かっこ« »に教科書本文と同じ with が示されていることから語義 1 を参照させる。
- 教科書本文では『はやぶさ』との communication を表しているのだから, カタカナ語の「コミュニケーション」という感情や意思疎通を表す場合によく使われる訳語より, 「伝達, 連絡, 通信」といった情報のやり取りを表す訳語の方がふさわしいことを確認させる。

Crown English Communication II, p. 140.

—3

Day in and day out, the team sent a message: “Hayabusa, we are waiting for your answer. Come in, please!” But no spacecraft in history had ever been able to start communication again after such a long blackout.

Hayabusa was lost in space for 43 days. Finally it answered, but the ⁽¹⁾window of opportunity for re-entry had already passed. Hayabusa had to remain in space for ⁽²⁾another three years. Later, there was a new problem: all four engines stopped. It was almost impossible for Hayabusa to return to the Earth. However, by somehow fixing the engines, the team ⁽³⁾succeeded in reactivating Hayabusa.

In June 2010, Hayabusa, ⁽⁴⁾badly damaged, was finally approaching the Earth. Hayabusa released the capsule successfully, and would soon burn up like a shooting star. It was not made to

Lesson 9—Section 3

(1) window ㊦ **8**, p. 2170.

8 (限定された)短い期間 ▶ *a window of opportunity*
一瞬の好機.

- 教科書本文の下に日本語で意味が出ているが、なぜそのような意味になるのかを確かめさせる。「窓」「窓口」といった訳語ではこの部分の訳としてはそぐわないことをチェックさせた上で、辞書で重要コロケーションと位置付けられた太字用例が教科書と同じである語義 **8** に導く。
- 語義 **8** の訳語が「(限定された)短い期間」であること、*opportunity* が「機会・好機・チャンス」という意味であることから、この句が「一瞬の好機」という訳になることを確認させる。

(2) another ㊦ **1b**, p. 80.

b [[数詞や few などの前で] さらに[もう]…の (further) ▶
wait *another few weeks* もう数週間待つ (= wait a few more weeks) / *Another four people were rescued.* さらに4人が救出された (■数量名詞句を1つの単位と見なすときは単数扱いできる: *Another ten minutes has [have] been wasted.* さらに10分の時が空しく過ぎた).

- 教科書本文では *another three years* と数詞が続いていることをチェックさせたい。[[数詞や few などの後で] という用法指示から語義 **1b** に導く。
- 辞書の用例訳を参照させ、教科書本文が「あと[もう, さらに] 3年宇宙に残らなければならなかった」という意味になることを確認させる。

(3) succeed ㊦ **1a**, p. 1883.

suc·ceed* /səkˈsiːd/
[原義は「後に (sub) 続く (ceed); 継承する」] ((名) *success, succession, successor*, (形) *successful, successive*, (副) *successfully*)

—動 (～s /-dʒ/; ～ed /-ɪd/; ～ing)

—自 **1a** [*succeed in A/in doing*] (人が A (事) […すること] に成功する, うまく A […] する ▶ *succeed in persuading him* 彼の説得に成功する [彼をうまく説得する] / *I tried to explain the phenomenon but **succeeded only in causing** a misunderstanding.* 私はその現象を説明しようとしたが, (意に反して) 誤解を生む結果に終わった.

- 文型表示のある動詞は、使われる型とその場合の意味とをまとめて覚えさせたい。教科書本文が *succeeded in reactivating* となっていることから、文型表示 [*succeed in A/in doing*] のある語義 **1a** をチェックさせる。辞書ではスラッシュ (/) が「または」という意味で使われることを確認し、教科書本文は文型表示の後半部分に相当することを確かめさせる。
- 辞書の第1用例を参照させ、教科書本文が「『はやぶさ』を復活させることに成功した」という意味になることを確認させる。

(4) badly ㊦ **3**, p. 143.

3 かなり, ひどく (傷つける・悪くなるなど) ▶ *go badly wrong* (事態が) かなり深刻になる / *be badly injured* [wounded] 重傷だ / *The city was badly damaged by bombs during the war.* その都市は戦時中に爆弾でひどい被害を被った.

- 教科書本文が *badly damaged* となっていることを確かめさせる。第3用例が教科書と同じ *badly damaged* になっている語義 **3** を参照させ、この部分は「ひどく傷ついて, ひどい被害を受けて」という意味になることを確認させる。
- 山形かっこ () で示されている, よく一緒に用いられる表現 (選択制限) や, 辞書の用例をチェックさせて, この意味では「傷つける, 悪くなる, 怪我をする, 壊れる」というよくない意味を表す語を修飾していることを確認させる。さらに, 他の語義の場合は, 選択制限に示されている表現が違っていることにも注目させたい。

Crown English Communication II, p. 141.

withstand the heat of re-entry—about 3,000 degrees
(1)Celsius. Kawaguchi Junichiro, manager of the
Hayabusa Project, sent one last command: “Take a
photo of the Earth.” All the project members wanted
to see what the Earth looked like to Hayabusa just
before it burned up. Hayabusa tried to take the
photo several times but failed. Finally, at the very
last moment, it took this photo—Hayabusa’s (2)final
farewell.

(1) Celsius ㊦, p. 309.

Cel·si·us[†] /sélsɪəs, (米) -fəs/ ㊦㊦㊦ 摂氏(の) (centi-grade) ((略) C., c.; →Fahrenheit, thermometer) (摂氏寒暖計 (**Celsius thermometer**) の創案者である, スウェーデンの天文学者セルシウス (Anders /ændərz/ ~; 1701-44) の名から) ▶The temperature in Tokyo reached 30°C [thirty degrees Celsius]. 東京の気温は摂氏 30 度に達した。

- ・ 訳語に加え, それに続く()の中で(略)というロゴを使って示された略語(C., c.)をチェックさせる。
- ・ 略語に続く()に囲って記された百科的解説から, この語がセルシウスという人名から来ていることを確かめさせる。
- ・ 教科書本文や辞書の用例から, 「…度」を表す degree は複数形になること, さらに辞書用例の[]を使った書き換え部分から, 略語で示された場合, ... degrees Celsius と読むことを確認させる。

(2) final ㊦ 1, p. 712.

fi·nal¹ /fáɪn(ə)l/ [fin (終わり) al (の)]
((副) finally)

— ㊦ (比較なし) 1 ㊦㊦の前で] 最終の, 最後の; 最終結果の (㊦last は順番の終わりを示すが, final はそれで完結・終了することを示す) ▶the final stage(s) [chapter, outcome] 最終段階[章, 結果]/the final round 最終ラウンド, 決勝/the final product 完成した製品/a final demand (支払い)最終請求。

- ・ 類語との違いを意識させたい。語義 1 の (㊦last は順番の終わりを示すが, final はそれで完結・終了することを示す)という注記を参照させ, 教科書本文が「(使命を終え, 燃え尽きる前の)『はやぶさ』が残した最後の別れ[惜別]のことば」という意味になることを理解させる。
- ・ 辞書の用例をチェックさせて, 単に順番の終わりを示す last¹ ㊦ 2 (p. 1082)との違いを再確認させ, 知識の定着を図るとよい。

2 [[the/one's ~] a (順序が) 最後の, 最終の, 終わりの; 最下位の, びりの (↔ first) (㊦同類のものが後に続かないことを意味する; →latest, final 2) ▶This is our last chance to see the play in Japan. これが日本でその芝居を見る最後のチャンスだ/miss the last train 終電に乗り遅れる/What do you think the last two sentences mean? 最後の2つの文はどんな意味だと思いますか (㊦last と two の語順に注意). b ㊦㊦の前で] 最後に残った ▶You're our last hope. 君が我々にとって最後の望みだ/eat the last piece of cake ケーキの最後の一切れを食べる/the last bastion of colonialism 植民地政策の最後の砦(てがら)。

Crown English Communication II, p. 144.

—4

The capsule with its soil samples landed safely in the Australian desert on June 13, 2010.

Kawaguchi says, “Many people said the Hayabusa Project was too ambitious and that there were too many risks. I knew it was true and I have to (1)admit that the success of the project was the result of a lot of luck. But we have always been ready to set high (2)goals and take risks. If you want to see a long way, you have to build a high tower.

“If we can get the necessary support, we will soon be working on a new spacecraft which will go 20 to 30 times farther than Hayabusa.”

In the 15th and 16th centuries, people like Magellan set out on voyages to the East in (3)search of gold and spice. Now Kawaguchi believes we are

Lesson 9—Section 4

(1) admit 動 ㊦ 1b, p. 30.

b [admit (to A) (that) 節/doing] (人が) (しぶしぶ) …という[…した]ことを(A (人など)に)認める (㊦ that 節の方が普通)
 ▶ He admitted to himself that he was still attracted to her. 彼はまだ彼女にひかれていることを自認した/I have to [must] admit (that) I was wrong. 恥ずかしながら、僕が間違っていたよ/The company admitted breaking [having broken] the law. その会社は法を犯したことを認めた/It must [has to] be admitted that …. (かたく) …ということが認められなければならない。

- 教科書本文では admit に that 節が続いていることから、[[admit (to A) (that) 節/doing]]の文型表示のある語義 1b に導く。辞書ではしばしば丸かっこ()で示された要素は「省略可能」を、スラッシュ(/)は「または」を表すことを確認し、教科書本文は文型表示の前半部分に相当し、to A は省略された形であることを確かめさせる。
- 辞書の訳語部分の()を使った補足説明を確かめさせる。単に認めるのではなく、(あまり認めたくないが、しぶしぶ)認める」という意味合いがあることに注意させる。
- 辞書の第2用例が教科書本文と同じロケーションであることをチェックさせる。太字用例はよく使われる表現であることを確認させ、ここでは「(『はやぶさ』プロジェクトはあまりに野心的でリスクの高いものだったので、あまり認めたくないが、恥ずかしながら)プロジェクトの成功は多くの幸運の結果だと認めなくてはならない」と言っていることを理解させる。

(2) goal 名 1, p. 829.

goal 名 /gou/ (㊦ -oa- は /ou/) [語源は「境界線」]

㊦ ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 1 (努力などの) 目標, 目的 (→purpose 類義) ▶ achieve [attain, reach] a goal 目標に達する/set (oneself) a goal 目標を設定する/work toward(s) a goal 目標に向かって努力する/the ultimate goal 究極の目標/one's goal in life 人生の目的/a long-term [short-term] goal 長期的[短期的]目標/Our goal is (to) provide [×providing] the best possible service. 我々の目標はできる限りのサービスを提供することです (㊦ to を省略するのは (くだけて))/the goal of doing …するという目標。

- カタカナ語として定着しており、意味を取りやすい語であっても、類語との違いや発信活動に使える情報を調べさせたい。語義 1 の訳語に続く(→purpose 類義)という参照指示に注意させ、purpose (p. 1525)にある類義コラムをチェックさせる。コラムの記述から、goal が他の「目的・目標」を表す語とどのように違っているかを確かめさせる。

類義 purpose と aim, end, goal など
 purpose は達成すべき目的を表す最も一般的な語で、強い決心で自分の能力や機会を最大限利用することを暗示する。aim は行動の指針となる明確な目標のことをいうが、単に達成しようとしているだけで成否は不明。短期(集中)的な目標を示すことが多い。end は(かたく)で、原理的・論理的な必要性から生まれ、その達成には明確な計画を必要とするような目標で、遠い将来の最終的な目標であることを暗示する。通例複数形か定形表現で使われることが多い。goal は主に個人の人生や仕事、会社や組織での長期にわたる設定すべき目標で、努力や苦難を暗示する。object は(ややかたく)で、個人的な決断・願望・必要性に基づく目標を表す。objective は(ややかたく)で、具体的で即座に達成可能な、あるいは最終的には達成可能と思われる目標を表し、しばしば政治政策やビジネスの一部を成す目的を表す。

- 辞書の第2用例と教科書本文とを比較させ、「目標を設定する」という場合、動詞は set を用いることを確認させる。太字用例であることから、重要なロケーションであることを注意させる。
- 「目標に達する」と表現する場合の動詞が第1用例にリストされているので確認させる。『ウィズダム英和辞典』では、名詞と動詞の典型的な組み合わせなどの重要表現が太字で示されているので、常に意識させて、会話や作文といった発信活動に繋げさせたい。

Crown English Communication II, p. 145.

(1)about to enter a “New Age of Exploration” into space in search of new knowledge and (2)resources.

Kawaguchi concludes: “We’d like to be leaders in this new age. Setting high goals means facing great difficulties. We must be strong and build good teamwork. We must not get discouraged by trouble and failure. Looking at Hayabusa’s photo of the Earth, I seem to hear its voice: ‘Never (3)give up! Forward into the future with hope and confidence!’”

(1) about 形 成句 be about to do, p. 8.

be about to do* 〈人・物・事がもうすぐ[まもなく]…する, まさに…するところである (be just going to do, be on the point of doing) ①しばしば just が about の前に添えられて, 直前であることを強調する; 時間的に接近していることを強調するので, tomorrow など未来を表す時の副詞(句)とは通例用いない) ▶The bus is about to leave. バスがまもなく出る/“Have you told Sue about Sunday?” “I was just about to.” 「スーに日曜日のこと話したかい」「ちょうど話そうとしていたところだったの」(②このように過去時制では, しばしばその行為が実現されなかったことを暗示する).

- ・ 馴染みのある語の新しい用法として調べさせたい。教科書本文の we are about to enter が「be 動詞+about+to 不定詞」の形を取っていることから, 形容詞の 成句 be about to do を参照させる。
- ・ 辞書の訳語や第 1 用例から, 教科書本文が「私たちは宇宙の『大航海時代』にまさに入ろうとしている[まもなく入る]」という意味になることを確認させる。

(2) resource 名 1, p. 1600.

re-source* /ri:so:rs|ri:zõ:s, -sõ:s/
[re (再び) surge (立ち上がる)]
— 名 (数 ~s /-iz/) 1 名 ① 通例 ~s (石油・石炭などの) 資源: 供給源 ▶natural resources 天然資源.

- ・ 教科書本文では「…を探す宇宙の『大航海時代』に入る(enter a “New Age of Exploration” into space in search of …)」という部分で使われていることから, 語義 1 の「資源」という意味がふさわしいことを確認させる。
- ・ ①通例 ~s という用法指示から, 複数形でよく使われ, 教科書本文でも複数形であることを確かめさせる。and で等位接続された名詞 knowledge が不可算名詞であるため, 複数形になっていないことにも注意させるとよい。

(3) give 動 成句 give up, p. 814.

give up あきらめる, 断念する; (習慣などを)やめる ▶I give up. (話)もう降参だ, 参った (①質問やなぞなぞの答えがわからない時のせりふ)/Don't give up. あきらめてはだめだ (②相手に対し, 現時点での努力を促す言葉: Never give up. は「将来にわたってずっとあきらめるな」の意で永続的な禁止を表す).

give A up [up A]* (1) A (習慣など)をやめる, 断つ (①A は 名 動名) ▶give up smoking [×to smoke] 喫煙をやめる. (2) A (考え・希望・仕事など)をあきらめる, 捨てる (①A は 名 動名; 受け身にしない) ▶give up trying to lose weight やせようとするのをあきらめる/No one gave up hope of finding survivors. 誰一人として生存者発見の望みを捨てなかった/give up one's career in music 音楽の道を断念する.

- ・ 教科書本文には目的語がないことから give の 成句 にある give up, give A upのうち, 自動詞用法の give up を確認させる。
- ・ 辞書の第 2 用例が否定の命令文であり, 教科書本文と似た意味になることを確かめさせる。その上で用例訳に続く ②の注記から, Never give up. が持つ意味合いを確認させる。